

中高一貫という長い時間によって、自分の将来の道を広げられた

H. Y.

茨城大学 工学部 情報工学科 進学

那珂市立 菅谷西小学校 卒業

じっくりと勉強ができることが良いなと思いました。高校受験が無いため、自分のペースでしっかりと基礎を身につけることができます。私は実際、中学3年次の数1のテストで低い点数を取ったこともあります。しかし、授業が分かりやすいこともあり、写したノートと教科書を活用して自分に足りなかった部分をゆっくりと確実に補うことができました。大学受験の中で、私は嫌というほど基礎の重要性を思い知りました。中高一貫では6年間という長い時間があり、どこかでつまづくことがあっても頑張り次第で挽回できるので、私は茨中から在籍していて良かったと思いました。

私は特に印象に残った思い出が2つあります。1つ目は中学1年から高校1年まで所属した女子ソフトテニス部です。私の1学年上の先輩は1人も所属しておらず、学年によって人数の差がある部活動といった印象がありました。しかし、学年が離れていても皆親切で優しく接してくれて、雰囲気が良い部活動でした。私の学年では最終的に8人が所属しました。皆個性もバラバラですが、部活動の練習や合宿を通して卒業しても遊びに行く仲になりました。長い人だと6年間の付き合いになり、これは小学校1年生から6年生まで付き合いが続いた場合と同じ年数です。これだけの長い年数付き合ってきた友達は、自分の素が出せるので本当に一緒にいて楽しく、友達になれて良かったと思います。練習が辛い時もありましたが、皆と過ごした時間は大切な思い出です。2つ目は高校2年次の研修旅行です。私はそれまで海外に行くことに抵抗があり、行く直前まで少し嫌でした。しかし実際行ってみると、日本とは違う新鮮な体験がたくさんできました。その中には良かったとは言えない体験もありました。しかし、友達と行っているので一緒に乗り越えることができ、今では良い笑い話になっています。茨高は普通の旅行ではできないようなことも経験させてくれるので、私は研修旅行に行って良かったと心から思っています。

私は茨中・茨高と通って、大事な一步を踏み出す勇気をもらえたと思っています。まず、中高一貫という長い時間があるので、自分の将来の道を広げられたと思います。私は中学3年次にゲームにハマり、高校1年の春休みに学校で配られたチラシをきっかけにプログラミングスクールに通い、秋頃に将来はゲームを作りたいという夢ができました。茨高では2年次から文理の選択があり、理系に行くなれば物理か生物を高校1年の冬には決めなければなりません。私は夢ができるまでただ現代文が得意だから、という理由だけで特にやりたいこともなく文系に行くのだらうと思っており、物理の成績など目も当てられないほど悪かったです。しかし、ゲーム制作には物理の理解が必要であるということを知り、私は理系の物理選択をしました。その時の面談で何か言われるだろうと思っていましたが、そんな事はなく、むしろ自分に合った志望校を先生方は親身に考えてくれました。私が本当にゲームを作りたいという理由で大学を決めて良いか悩んでいた時も、いつだって背中を押してくれました。そこから私はゲームを作りたいから大学に行く、という思いを揺るがず持てることができました。茨中・茨高は成績で自分の可能性を狭めるどころではなく、自分のやりたいことを尊重してくれる場所です。私はそこが一番の良いところだと思っています。

私は将来、楽しいと思えるようなゲームを作りたいです。それはただの2D・3Dゲームではなく、まだ誰も体験したことのない新鮮な感覚を与えることのできるゲームです。困難な場面もたくさんあると思いますが、新しいことに挑戦するという一步を踏み出す勇気を持ってゲーム作りをしたいです。